

# 末武コミュニティ拠点施設基本構想 【概要版】

## 現状と課題

- 末武地区の人口
  - 14,793人(令和6年12月末)
  - 30歳~50歳の人口は20年前よりも約65%増加。
  - 居住歴の浅い市民の割合が高く、若い世代を中心とした人口増加の受け皿の中心地区。

## 2. ハザードマップ

- 地区内に3本の河川(切戸川、平田川、末武川)が流れしており洪水ハザードマップでは区域内の大部分が浸水想定。

## 3. 末武公民館

- 昭和48年築
- 鉄筋コンクリート造2階建て
- 敷地面積 約3,300m<sup>2</sup>
- 延床面積 890.02m<sup>2</sup>
- 建築後50年が経過。耐震性がなく、老朽化も著しく建替え。
- 建設場所は「現地建替え」。



## コンセプト

合言葉は「末コミで！」  
～気軽に集える、頼れる拠点施設～

※末コミ…末武コミュニティ拠点施設の略

活気ある末武地域で、「出会い、交わり、関わり、繋がり、広がり」ができる空間を創出する。

## 施設整備基本方針

### (1) おまかせパブリック・オリジナルパブリック

- 使い方を指定しないオープンな施設、自由な施設。(誰でも、さまざまな利用を受け入れる。)
- 地域住民が決める使い方。地域開放。地域住民が自由に利用できる(しやすい)スペース。
- 末武地域の特色(若い世代)を生かした、子育て施設の充実。  
「子どもを連れて末武公民館でちょっと遊ぶ」(対応する設備、スペース。)
- 誰もが気軽に立ち寄って交流できる、地域の憩いの場となる施設。  
「末武公民館でちょっと休憩する」(対応する設備、スペース。)
- 新しい施設と地域との敷居を低く。シームレス化。
- 動と静の空間  
にぎやかな空間(交流ゾーン、講堂、講座室など)  
静かな空間 (和室、図書コーナーなど)



### (2) アカデミックエリアの創出

- 近隣学校との連携、施設活用、アカデミックスペース、学習スペース

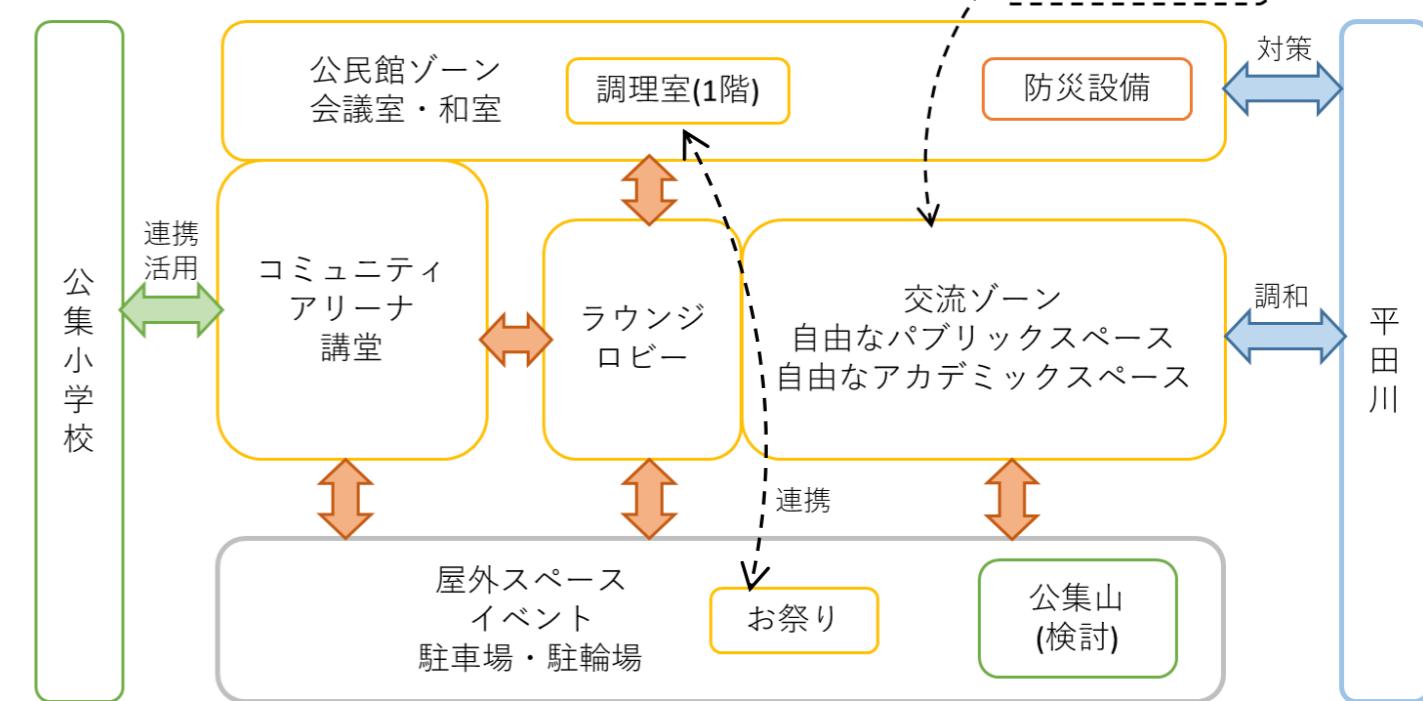
### (3) 地域防災の拠点

- 末武地域の防災拠点として、災害時に地域住民が安心して避難できる施設。

## 必要施設と利用方法の想定

必要施設等	想定する利用方法
事務室	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸館事務、更衣室、事務用倉庫、給湯室など</li> <li>明るく立ち寄りやすい、声を掛けやすい窓口</li> </ul>
ラウンジ・ロビー	<ul style="list-style-type: none"> <li>明るく立ち寄りやすい解放感を持つ空間</li> <li>地域住民が自由に利用できる(しやすい)オープンスペース(展示、地域情報発信、地域掲示板など)</li> </ul>
自由なパブリックスペース アカデミックスペース (交流ゾーン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラウンジ、ロビーと連動。(アクセスしやすさ)</li> <li>くつろぎの場(誰でも利用可)、交流の場、お茶のみ場。</li> <li>イベントの開催。(キッチンスタジオ、カフェ、セルフサーバー、展示など)</li> <li>児童、生徒、学生の利用の場。読書、図書閲覧の場。学習活用の場。</li> <li>子どもの遊び場。(乳幼児専用スペース)</li> </ul>
コミュニティアリーナ(講堂)	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動スペースの確保。公集小学校屋内運動場との連携。イベント、発表会など。</li> </ul>
会議室・大会議室	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種会議、各種講座などの生涯学習の場。災害避難時は避難者居室。</li> <li>会議規模による室の大きさの変更。(パーテーションなど)</li> </ul>
和室	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種講座など生涯学習の場。災害避難時は要援護者居室。</li> </ul>
調理室	<ul style="list-style-type: none"> <li>配食サービス(調理、配膳作業)。料理教室、キッチンスタジオ。(イベントなど)</li> <li>災害避難時は、炊き出し実施</li> </ul>
トイレ・授乳室	<ul style="list-style-type: none"> <li>バリアフリーに対応。多目的トイレ(おむつ替え台、オストメイトなど)・授乳室。</li> </ul>
避難所・防災施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震、洪水、高潮、台風等災害時の避難場所、シャワー室。</li> <li>防災倉庫(防災備品、備蓄食料品の保管)、屋上避難も検討。</li> </ul>
エレベーター	<ul style="list-style-type: none"> <li>バリアフリーに対応</li> </ul>
駐車場・駐輪場	<ul style="list-style-type: none"> <li>敷地を最大限活用した駐車スペースの確保。(障害者用含む。)</li> </ul>
外構	<ul style="list-style-type: none"> <li>公集小学校、公集児童の家との連携。出入口の充実。(新しい施設に立寄りやすい工夫)</li> <li>平田川公園との調和のとれた施設。公集山と新しい施設との共存の可能性を検討。</li> </ul>
防災設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソーラー照明、災害用トイレ、かまどベンチ、太陽光発電、非常用発電機、蓄電池など。</li> <li>クーリングシェルターの機能整備。設備機器の水害対策。(高所設置)</li> </ul>

## 必要施設等の配置イメージ



## 整備スケジュール(想定)

- |                            |                  |
|----------------------------|------------------|
| 令和7年度：基本構想策定、敷地水平測量、基本計画策定 | 令和10年度：建築工事(1年目) |
| 令和8年度：基本計画策定、基本設計、実施設計     | 令和11年度：建築工事(2年目) |
| 令和9年度：実施設計、解体工事            |                  |